

令和元年6月9日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(B)（海外学術調査）

研究期間：2014～2018

課題番号：26300035

研究課題名（和文）援助と投資の経済人類学：エチオピアの食料資源の市場化／脱市場化に関する実証分析

研究課題名（英文）Economic Anthropology of Aid and Investment: Analysis of Market and Non-Market Flow of Food Resources in Ethiopia

研究代表者

松村 圭一郎（MATSUMURA, Keiichiro）

岡山大学・社会文化科学研究科・准教授

研究者番号：40402747

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,500,000円

研究成果の概要（和文）：エチオピアでは、食料不足のために大量の食料援助を受け入れる一方、アグリビジネス企業による農地取得が進み、食肉などの食料輸出も増大してきた。本研究は、このような急速に変化しつつある食料資源に焦点をあて、その資源をめぐって開発援助や市場経済、国際／国内政治が相互に関連している構図を実証的な現地調査で明らかにすることを目的として実施した。一連の研究結果の分析からは、エチオピア政府や国際的な開発援助と経済的な投資が顕著に関連している地域がある一方で、海外からの積極的な援助や投資がない地域で自発的な市場活動が生じている状況があきらかになり、市場経済と政治・援助体制との関係について興味深い知見が得られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究によって、開発援助と経済投資との関与の度合いに地域ごとに大きな違いがあり、投資が援助と結びつきながら双方が展開していくという当初想定した図式に当てはまらない多様な状況がみえてきた。政府の移住政策の「失敗」が予想外の展開をみせて、従来とは違う土地利用形態を進展させたり、食肉の国際取引の拡大が民族間の協力関係を促進したりする事例などは学術的にも興味深い知見が得られた。また開発政策のなかで「脆弱さ」を強調する言説が流布する一方、それとは異なる現地の多様な実践が観察される事例等は現代世界の重要課題である「グローバル化」の複雑なプロセスの理解に貢献する社会的意義の高いものである。

研究成果の概要（英文）：In Ethiopia, while nearly 10 million people depend on food assistance from international donors, the government is encouraging agribusiness firms to build commercial farms for export crops by displacing local people. Through an extensive food aid program that was initiated in 2005, about 7.6 million registered beneficiaries have continually received food and/or cash. During the same period in the last decade, both live animal and meat export has quadrupled, and the government has leased more than 3.6 million hectares of land to investors to build commercial farms for producing export crops. Our ethnographic studies analyze these market and non-market entanglements, and suggest that anthropological knowledge of its globalized link emerged on the peripheries of Ethiopia would encourage a critical reconsideration of what “globalized economy” means.

研究分野：文化人類学

キーワード：経済人類学 移住政策 ランドグラブ アグリビジネス 開発援助

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

エチオピアでは、近年、深刻な食料不足のために大量の食料援助を受け入れる一方、アグリビジネス企業による農地取得が進み、食肉などの食料輸出も増大している。これまでの人類学は、途上国の開発援助について開発人類学の視点からその社会的影響や政治的背景を「市場」や「経済」の動きとは切り離して論じてきた。本研究では、「援助」を市場とは異なる「開発分野」の問いとしてではなく、現代アフリカで進行する市場経済化や商業化と同一の地平でとらえなおす。「市場/経済」について、国際社会の援助や国家政策といった非市場的な営みとの関係をとらえて理論的に再検討する。

2. 研究の目的

本研究は、急速に変化しつつあるエチオピアの食料資源に焦点をあて、その資源をめぐって開発援助や市場経済、国際/国内政治が相互に関連している構図を実証的な現地調査によって明らかにすることを目的とした。アフリカの周辺社会でダイナミックに展開している市場(投資)と非市場(援助/政策)との交錯した関係を統合的に分析することで、「市場/経済」に関する独創的な理論構築を目指した。

3. 研究の方法

本研究の代表者および分担者は、いずれもエチオピアにおいて10年以上にわたって人類学的な現地調査を継続し、多くの研究成果を挙げてきた。本研究では、それぞれが現地語に精通し、信頼関係を築いている周辺社会を対象に、開発援助とアグリビジネスというテーマのもとで5年間の研究期間のなかでそれぞれ複数回にわたる現地調査を実施した。各事例研究をエチオピア全体の動向や国際社会の動きなどの文脈に位置づける資料収集や現地調査を行い、国内での研究会の開催をとらえて分担者の個別調査の情報を統合的に分析した。

4. 研究成果

本研究は、5年間の研究期間を通じて、下記のような研究成果を得ることができた。

1) 現地調査からあきらかになった知見の概要

現地調査によって、開発政策や食料援助、市場経済化やアグリビジネス企業による投資の進展などグローバルな人やモノの移動の加速がエチオピアの周辺社会でどのような変化をもたらしているのかについて、おもに下記のような点があきらかになった。各フィールドによって援助と投資の絡まりが明確にみえる地域と、そうではない地域があること。経済投資のなかには家畜の肥育やゴマ栽培など食料資源への投資がある一方で、石油掘削や水力発電のためのダム開発といった資源開発への大規模な投資も関係していること。一部の調査地では、プランテーション開発にともなう集団移転に食料援助が活用されていること。エチオピアの農園開発がかならずしも当初の政府の目標通りに進捗しておらず、開発の停滞やそれにとまらぬ行政指導などが出され、土地の貸与が停止されたアグリビジネス企業もあること。干ばつや不安定な降雨の影響で大規模な食糧不足が生じており、国連など国際機関をはじめ、国際社会への援助アピールが出され、緊急食糧援助の実施が計画されていること。エチオピア政府や国際的な開発援助と経済的な投資が顕著に連動している地域がある一方で、むしろ援助の対象にもならず、海外からの積極的な投資もないような地域で、自発的な市場活動が生じていること。

援助が開発手段として、また政治的意図をとまらぬながら利用されている地域では、援助から利益を受ける者と利益を受けられない者とのあいだで分断が生じていること。土地不足に悩む高地農民の困窮を救済するための移住政策が住民への対処が不十分なまま、道路建設だけが進められてきたこと。

こうした事象は、いずれも市場経済と政治的体制との関係についての理論的考察にとって重要な知見をえられた調査結果である。

2) 代表者・分担者ごとの調査・分析結果

松村(ジンマ周辺農村・ラリベラ周辺農村): グローバル化の進展のなかで、エチオピアの農村社会がいかなる変化を経験しているのかについて調査を実施してきた。ジンマ周辺農村では、国営コーヒー農園が民間のアグリビジネス企業に払い下げられたことで、労働条件や隣接村の季節労働者の雇用形態などに大きな変化が見られ、幹部職員の給与が大幅に引き上げられた一方、農民の短期雇用がますます不安定になっている。そうしたなか、女性の中東への出稼ぎが増え続け、何度も行き来を繰り返す状況が継続している。不安定なコーヒーなどの換金作物栽培から、出稼ぎ女性の送金に依存するようになり、農村内部の男女の性別役割分業や家族関係のあり方に大きな変化があらわれている。ラリベラ周辺農村では、大規模な食料援助プログラムが継続され、その裨益者とそれ以外の農民とのあいだに不公平感が生じたり、登録世帯の人数や経済状況の変化が反映されないまま援助配布が継続している状況があきらかになった。

佐川(ダサネッチ): エチオピアで新たな食料安全保障政策の一環として実施されている「生産的セーフティネット・プログラム」(PSNP)と、他の大規模な開発事業とが、いかなる関係をもちながら同国西南部の農村社会に影響を与えているかを調査した。とくに、地方行政のレベルで、各行政区にPSNPの登録者数を割り当てる際にいかなる要因が作用しているのかを分析し、

PSNP がつよい政治的な意図をとめないながら運用されていることを明らかになった。そして、PSNP と大規模な開発事業は、相互に作用しあいながら住民の政府への依存をつよめ、また住民間に「開発事業を受容し PSNP の配分を受ける者 / 開発事業に異を唱え PSNP の配分を受けられない者」という分断をもたらしていることが示された。

藤本(マロ): 研究期間のうち H28 年と H30 年の 2 回にわたって開発政策と農村社会の変容に関する現地調査を実施した。H28 年の調査では 20 年来の調査地であるマロを訪れ、作物・家畜共有に関する調査を行うとともに、北縁部を流れるオモ川で開発の進む電源ダム(ギベ第四ダム)の建設現場を見学し、またマロ西方のサーライシェで実施されているリセトルメント(再定住)プロジェクトで聞き取り調査を行った。H30 年の調査ではマロのオモ川対岸(北岸)のコンタを訪れ、ダム開発現場を訪れることを試みたが、許可が得られず断念し、コイシャ近郊で実施されたりセトルメントに伴う生業・社会変容を調べるとともに、近隣に暮らす少数民族ツァーラの地を訪れ、現地調査を短期間ながら実施した。

曽我(ガブラ): エチオピア南部の牧畜民ガブラを対象に、援助と投資に関する現地調査を実施した。ガブラは 2005 年の民族紛争から避難し、スルバ地域、モヤレ地域、そしてケニアに分散して居住している。エチオピアでは、アラブ諸国からの投資によって設立された輸出業者がラクダのグローバル取引を活性化させた。これに呼応して、ガブラの人々は、モヤレ地域とスルバ地域をむすぶリージョナル取引を活性化させていた。さらに取引に付随する賃金労働がガブラにとって重要な収入源になっていた。従来、牧畜民は家畜生産物(ミルク、血、肉)に依存した生活を送ってきたが、近年、度重なる旱魃等の影響で援助物資が届けられ、農作物(トウモロコシ、油、砂糖)に対する依存度を高めている。こうした食生活の変容と、賃金労働の重要性は、相互に重なりあうものと理解できる。

田川(ボラナ): エチオピア南部の農牧社会ボラナを対象に、援助と投資に関する現地調査を実施した。ボラナはかつてウシに価値をおく牧畜を主としていたが、近年、人口増加と度重なる干ばつにより定住的な農耕へ依存が高くなっており、牧畜からの離脱を促進し定住的な農牧民化を目的とする村落開発が進められているが、一方で、牧畜の市場経済への組み込みを目的とした政策も行われている。しかし、こうした政策と経済状況は気候変動と市場変動というリスクを克服することなく、持続的な食糧などの経済援助が前提となる。ボラナの生計活動は、牧畜の市場経済、農耕村落開発、食糧援助という三つの要素の相互関係のなかで成立しているのである。

以上のような分析をとおして、開発援助と経済投資 / 経済活動との関与の度合いには地域ごとに大きな違いがあり、かならずしも経済投資が開発援助と結びつきながら、双方が展開していくという当初想定した図式に当てはまらない状況がみえてきた。たとえば、政府の移住政策の「失敗」が予想外の展開をみせて、従来とは違う土地利用形態を進展させたり、食肉の国際取引の拡大が、あらたな民族間の協力関係を促進したりする事例など、興味深い研究成果がでている。また開発政策のなかで、「脆弱さ」を強調する言説が流布する一方、それとは異なる現地の人びとの多様な実践が観察される事例は、「グローバル化」という現象の複雑なプロセスの理論的検討にとって重要な知見が得られた。

3) 研究会での調査結果の分析

本研究課題では、毎年、国内研究会などを開催することで調査結果の分析について議論を重ねてきた。初年度である平成 26 年度にはエチオピアの首都アジスアベバにおいて、代表者と分担者で現地ワークショップを開催し、研究の進め方、各調査地の状況に関する情報共有、現地協力者との関係構築について議論し、その後の国内研究会では、各フィールドの状況がどのように関連し、ずれているのか、現地調査報告をとおして検討した。平成 27 年度には、エチオピア人研究者・現地協力者を招いたワークショップを岡山大学で開催し、現地の最新の状況について情報共有するとともに、本研究課題の現地調査について研究報告と議論を行った。さらに、国内の複数のエチオピア研究者の参加をえて、本課題の研究成果の発表と情報交換を行った。平成 29 年度は、エチオピア研究に従事する他の日本人研究者 7 名を岡山大学に招いて研究会を実施し、本研究課題の成果を報告するとともに、研究代表者および分担者の調査地の状況がどれほど他のエチオピアの地域と共通しているのか、地域的な特徴や差異を生み出している要因は何かなどについて、2 日間にわたって議論を重ねた。その結果、開発援助を実施する NGO 等の活動が、2009 年に出された政府の布告(「慈善団体および市民団体に関する布告」)のもとでアドボカシーや人権の分野における活動が大幅に制限されたことで大きく変質し、各地の援助活動が政府の開発政策とより一体化するようになったことがあきらかになった。

こうした研究会やワークショップ等での議論や理論的検討をふまえて、各メンバーは多くの研究成果の投稿と発信を行い、代表者の単著をはじめ多数の著書や論文の出版、国内・国際学会での研究発表へと結びついた。

4) 国際学会での研究成果の発信と国際的な研究交流の進展

本研究課題では、研究成果を国際学会等でも積極的に情報発信してきた。とくに、平成 28 年 5 月にクロアチアで開催された IUAES(国際人類学民族科学連合)の中間会議にて、研究代表者と分担者 3 名とがパネル"Aid and Investment: Anthropological Engagement in Market and Non-Market Globalization on the peripheries of East Africa"を組んで、プロジェクト全体

の研究成果を発表した。発表準備や発表後のフロアとの議論などをとおして、それぞれのフィールドで起きている事象の関連性やその意味している影響関係などを具体的に確認することができた。さらに、同年8月にポーランドで開催された国際エチオピア学会(19th International Conference of Ethiopian Studies)にて、分担者2名が研究発表を行って研究課題についての議論を行なうとともに、他のエチオピア研究者との研究交流を進めた。

そのほかにも、平成26年には、代表者が Japanese-German Frontiers of Science Symposium (Bremen, Germany) に招待され、日独の先進的な研究に従事する若手研究者と交流を深めたほか、XVIII International Sociological Association World Congress of Sociology (横浜) で分担者が研究発表を行なった。平成27年には、5th African forum: Local Knowledge as African Potentials (Addis Ababa, Ethiopia) で分担者が招待講演を行なった。平成28年には、14th Europe Association for Social Anthropologists Biennial Conference (University of Milano-Bicocca, Italy)、15th Congress of Int. Society of Ethnobiology (Makerere University, Kampala Uganda)、59th Annual Meeting of the African Studies Association (Washington D.C., USA) での研究発表。平成29年には、58th Annual Meeting of the Society for Economic Botany (Braganca, Portugal) での研究発表を行なった。平成30年には、International Workshop “Relation between Arms Availability and Violence”、International Workshop on “Millets and Maize: Dynamics around Ethiopia’s Competing Grains”、Fifth International Symposium on Transnational Migration and Qiaoxiang Studies での3つの招待講演にくわえ、16th Congress of International Society of Ethnobiology と 20th International Conference of Ethiopian Studies での2つの国際学会での研究発表を行なったほか、代表者がストラズブル大学でワークショップや特別講演などを行ない、おもにアフリカからの移民問題について意見交換や議論をするとともに、同テーマに関係する多くの研究者との研究交流を行なった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計22件)

Sagawa, Toru 2019 Waiting on a friend: Hospitality and gift to the ‘enemy’ in the Daasanach. *Nilo-Ethiopian Studies* 23: 1-16. 査読有, オープンアクセス

Sagawa, Toru 2018 Availability and violence in the Ethiopia-Kenya-South Sudan borderland. 『国際武器移転史』6: 39-44. 査読有, オープンアクセス

松村 圭一郎 2018 「分配とヒエラルキー：平等/不平等をつくりだすもの」『思想』1134号(2018年第10号) 5-22頁. 査読無

佐川 徹 2018 「友を待つ 東アフリカ牧畜社会における「敵」への歓待と贈与」『哲学』69:147-183. 査読無

松村 圭一郎 2017 「分配と負債のモラルリティ：アフリカの名もなき思想の現代性」『思想』1120号: 39-59. 査読無

Tagawa, Gen 2017 The Logic of a Generation-Set System and Age-Set System: Reconsidering the Structural Problem of the Gadaa System of the Borana-Oromo. *Nilo-Ethiopian Studies* 22: 15-25. 査読有, オープンアクセス

佐川 徹 2016 「大規模農場の建設ラッシュと牧畜民の暮らし エチオピアにおけるランド・グラブの現在」『SYONODOS ジャーナル』 査読無, オープンアクセス

松村 圭一郎 2015 「国家と市場の人類学に向けて 経済人類学を再政治化するための試論」『社会人類学年報』41:25-47. 査読有

佐川 徹 2015 「紛争多発地域における草の根の平和実践と介入者の役割 東アフリカ牧畜社会を事例に」『平和研究』44:1-19. 査読有

佐川 徹 2015 「現代アフリカにおける土地をめぐる紛争と伝統的権威 特集にあたって」『アジア・アフリカ地域研究』14(2): 169-181. 査読有, オープンアクセス

DOI: https://www.jstage.jst.go.jp/article/asafas/14/2/14_169/_article/-char/ja/

〔学会発表〕(計42件)

Matsumura, Keiichiro 2018 Women Crossing Borders: A Case Study of Ethiopian Female Migrant Workers. Fifth International Symposium on Transnational Migration and Qiaoxiang Studies (招待講演)(国際学会)

Fujimoto, Takeshi 2018 Diversity, Cultivation and Utilization of Yams (*Dioscorea* spp.) among the Malo Mountain Farmers in Southwestern Ethiopia. 16th Congress of International Society of Ethnobiology (国際学会)

Fujimoto, Takeshi 2018 Why is Teff Uniquely Important in Ethiopia? A Consideration from a Southwestern Society. International Workshop on “Millets and Maize: Dynamics around Ethiopia’s Competing Grains”(招待講演)(国際学会)

Fujimoto, Takeshi 2018 People-Made Landscapes of Cropping, Managed Fertility, and Cosmology: The Case of Malo Farmers in Southwest Ethiopia. 20th International Conference of Ethiopian Studies (国際学会)

Sagawa, Toru 2018 Availability and Violence in the Ethiopia-Kenya-South Sudan Borderland. International Workshop “Relation between Arms Availability and Violence” (招待講演)

Fujimoto, Takeshi 2017 Plant Use Intensification: The Case of Enset (*Ensete ventricosum*) in Southwestern Ethiopia. 58th Annual Meeting of the Society for Economic Botany (国際学会)

Matsumura, Keiichiro 2016 Food aid, land grab and food export: Rethinking the Globalized World. IUAES Inter Congress (国際学会)

Fujimoto, Takeshi 2016 A Byproduct of Resettlement: A Study of Local Responses among the Malo, Southwestern Ethiopia. IUAES Inter Congress (国際学会)

Tagawa, Gen 2016 Transformation of the Livelihood of the Borana-Oromo in Southern Ethiopia. IUAES Inter Congress (国際学会)

Soga, Toru 2016 The global camel trading transforms the ethnic relations and subsistence economies in Southern Ethiopia. IUAES Inter Congress (国際学会)

Matsumura, Keiichiro 2016 Megabit: Waiting for a rain. 14th EASA Biennial Conference (国際学会)

Fujimoto, Takeshi 2016 Comparison of the Utilization of Wild and Cultivated Plants among the Malo of Southwestern Ethiopia. 15th Congress of Int. Society of Ethnobiology (国際学会)

Fujimoto, Takeshi 2016 On the Rise of Tef Cultivation in Ethiopia: A Case Study of a Southwestern Society. 59th Annual Meeting of the African Studies Association. (国際学会)

Sagawa, Toru 2015 Land rush and the frontier processes among the Daasanach of southwestern Ethiopia. 5th African forum ‘Local Knowledge as African Potential’ (国際学会)

Fujimoto, Takeshi 2015 From Frontier to Periphery: An Anthropological Analysis of Lowland Settlement Abandonment Among the Malo of Southwest Ethiopia. 19th International Conference of Ethiopian Studies (国際学会)

Tagawa, Gen 2015 Women's Sexuality in the Patriarchy of the Borana-Oromo. 19th International Conference of Ethiopian Studies (国際学会)

Soga, Toru 2015 War and Trade: Camel Trading and Interethnic Relations in Ethiopia. 5th African Forum 'Local Knowledge as African Potentials' (国際学会)

Matsumura, Keiichiro 2014 Ethnographic Study of Market and Non-Market Globalization in Rural Ethiopia. Japanese-German Frontiers of Science Symposium. (招待・国際シンポジウム)

〔図書〕(計 28 件)

Soga, Toru 2019 When Others Appear. Kawai, K. ed., *Others: The Evolution of Human Sociality*. Trans Pacific Press, 総頁 500(67-88)

曽我 亨・太田 至 2019「遊牧の思想とは何か」曽我亨・太田至編『遊牧の思想』昭和堂, 総頁 400(1-14)

曽我 亨 2019「難民を支えたラクダ交易」曽我亨・太田至編『遊牧の思想』昭和堂, 総頁 400(91-114)

佐川 徹 2019「『男らしさ』を相対化する ダサネッチの戦場体験」曽我亨・太田至編『遊牧の思想』昭和堂, 総頁 400(215-236)

松村 圭一郎 2019「贈り物と負債 経済・政治・宗教の交わる場所」松村圭一郎ほか編『文化人類学の思考法』, 総頁 224 (85-96)

藤本 武 2018「NGO の活動地域にみられる中心・周辺構造」宮脇幸生編『国家支配と民衆の力: エチオピアにおける国家・NGO・草の根社会』大阪公立大学共同出版会, 総頁 276(190-196)

田川 玄 2018「NGO ランド」に展開されるプロジェクト」宮脇幸生編『国家支配と民衆の力: エチオピアにおける国家・NGO・草の根社会』大阪公立大学共同出版会, 総頁 276 (184-189)

佐川 徹 2018「ローカル NGO による平和構築活動の成果と限界」宮脇幸生編『国家支配と民衆の力: エチオピアにおける国家・NGO・草の根社会』大阪公立大学共同出版会, 総頁 276 (234-239)

松村 圭一郎 2017「越境する女性たち 海外出稼ぎが変える家族のかたち」石原美奈子編『現代エチオピアの女たち 社会変化とジェンダーをめぐる民族誌』明石書店, 総頁 302 (46-78)

松村 圭一郎 2017『うしろめたさの人類学』ミシマ社, 総頁 192.

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

[その他]

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：曾我 亨

ローマ字氏名：Soga, Toru

所属研究機関名：弘前大学

部局名：人文社会科学部

職名：教授

研究者番号(8桁)：00263062

研究分担者氏名：藤本 武

ローマ字氏名：Fujimoto, Takeshi

所属研究機関名：富山大学

部局名：人文学部

職名：教授

研究者番号(8桁)：20351190

研究分担者氏名：田川 玄

ローマ字氏名：Tagawa, Gen

所属研究機関名：広島市立大学

部局名：国際学部

職名：教授

研究者番号(8桁)：70364106

研究分担者氏名：佐川 徹

ローマ字氏名：Sagawa, Toru

所属研究機関名：慶應義塾大学

部局名：文学部(三田)

職名：准教授

研究者番号(8桁)：70613579

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。